

JAえちご中越 さんとう地域「新之助」栽培暦

新之助研究会

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																						
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25																		
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定																																															
生育ステージ																																																
	<p>【作業目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> 種子消毒 (温湯消毒) 浸種開始 4月8日 催芽 4月18日 播種 4月20日 <p>播種量の目安: 150~160g/箱</p>																																															
	<p>《稚苗の規格》</p> <table border="1"> <tr><td>苗丈</td><td>12.0cm</td></tr> <tr><td>葉齢</td><td>2.0~2.3葉</td></tr> <tr><td>第1葉鞘長</td><td>3.0~3.5cm</td></tr> </table> <p>田植え 5月10日~</p> <p>中干し開始 6月10日~</p> <p>最高分け期 7月5日</p> <p>1回目穂肥 7月23日</p> <p>2回目穂肥 8月1日</p> <p>出穂期 8月12日</p> <p>収穫期 9月24日~</p>																									苗丈	12.0cm	葉齢	2.0~2.3葉	第1葉鞘長	3.0~3.5cm																	
	苗丈	12.0cm																																														
葉齢	2.0~2.3葉																																															
第1葉鞘長	3.0~3.5cm																																															
<p>生育量: 60本/12cm (草丈), 320本 (m²茎数), 30cm (葉色), 36.0 (m²草丈)</p> <p>全ほ場で溝切り</p> <p>病害虫防除の徹底 (いもち病・紋枯病・カメムシ)</p> <p>的確な生育診断による適切な穂肥施用</p> <p>気象予報と出穂以降の積算温度にもとづく「刈取計画の策定」</p>																																																
病害虫防除	<p>【いもち・紋枯病予防】ルーチンブライト箱粒剤 播種時~移植当日</p> <p>除草剤散布</p> <p>“補植苗”を早期に撤去する</p> <p>6月中旬~ 葉いもち病 { 早期発見 早期防除 }</p> <p>★必須防除★ 穂いもち病 ゴウケツ1キロ粒剤 出穂20~10日前</p> <p>【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期</p>																																															
水管理	<p>田植え後→3~4cmのやや深水で植え傷み回避</p> <p>活着後→2~3cmのやや浅水で早期分けつ促進</p> <p>除草剤散布時→湛水状態(水深5~6cm)で散布</p> <p>中干し開始まで→浅水更新でフキの発生防止</p> <p>生育量を把握して遅れずに!! 小ヒビが入る程度になったら終了</p> <p>飽水管理の継続 ⇄ タメ水厳禁 (異常高温時には一時湛水)</p> <p>フェーンの発生時: 地域の水利条件等に応じたこまめな水管理の徹底で夜間水温を下げる</p> <p>出穂後25日以降(通水最終日)に最終かん水を実施!!</p>																																															
栽培管理のポイント	<p>Point 1 ~適正な作業計画の策定により健苗を育成します~</p> <p>① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成</p> <p>② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用</p> <p>③ 転作跡・ほ場整備直後、いもち病の発生しやすいほ場では栽培しない→作土深15cmの確保~ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥 →基肥N施肥量のめやす: 「10a当たり2.5kg~3.0kg」</p>																																															
	<p>Point 2 ~適期田植えで初期生育を確保します~</p> <p>① 移植前追肥(べんとう肥)の施用 →活着・初期生育を促進</p> <p>② 田植期のめやすは5月中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽植密度: 50株/坪 植付本数: 3~4本/株 植付深さ: 2~3cmの浅植え <p>③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除(苗箱施用剤)を徹底→補植苗を速やかに撤去</p>																																															
	<p>Point 3 ~生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します~</p> <p>① 田植30日後をめやすに目標穂数の80%(320本/m²=1株あたり21本)を確保してから→適期中干し開始</p> <p>② 全ほ場で溝切り(10条: 3mに1本) →速やかなかん水・排水管理</p> <p>③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了~遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行</p>																																															
	<p>Point 4 ~病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します~</p> <p>① いもち病・紋枯病の早期発見~早期防除(こまめにほ場巡回)</p> <p>② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)</p> <p>③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降)~異常高温時には速やかに一時湛水~高温障害を防止</p>																																															
<p>Point 5 ~適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します~</p> <p>① 穂肥は出穂21~18日前(幼穂長0.5cm)と12~10日前(葉耳間長0cm)の2回に分けて施用 →1回あたり施肥量のめやすは N: 1.0kg、2回合計2.0kg/10a</p> <p>② 2回目の穂肥は確実に施用する</p> <p>③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥(過剰施肥に注意→基準適合米の玄米タンパク質含有率: 6.3%以下)</p>																																																
<p>Point 6 ~適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます~</p> <p>① 出穂後の積算気温: 1050~1100℃を参考に籾の黄化率(85~90%)を確認して適期に収穫する</p> <p>② 胴割粒の発生防止: 刈遅れに注意~籾水分の確認~適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない→1.9%以上の篩い目で選別し基準適合米(精粒歩合70%以上)に仕上げる</p> <p>③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み</p>																																																
<p>《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>時期</th><th>N成分</th><th>備考</th></tr> <tr><td>土づくり</td><td>収穫後</td><td>-</td><td>稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材</td></tr> <tr><td>基肥</td><td>~田植え</td><td>3.0kg</td><td>地力に応じて</td></tr> <tr><td>穂肥1</td><td>出穂21~18日前</td><td>1.0~1.5kg</td><td>遅れずに施肥~籾数確保</td></tr> <tr><td>穂肥2</td><td>出穂12~10日前</td><td>1.0~1.5kg</td><td>しっかり施肥~登熟向上</td></tr> <tr><td>合計</td><td>-</td><td>5.0~6.0kg</td><td>*一発基肥 トータルN: 5.0~6.0kg</td></tr> </table>																									区分	時期	N成分	備考	土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材	基肥	~田植え	3.0kg	地力に応じて	穂肥1	出穂21~18日前	1.0~1.5kg	遅れずに施肥~籾数確保	穂肥2	出穂12~10日前	1.0~1.5kg	しっかり施肥~登熟向上	合計	-	5.0~6.0kg	*一発基肥 トータルN: 5.0~6.0kg
区分	時期	N成分	備考																																													
土づくり	収穫後	-	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材																																													
基肥	~田植え	3.0kg	地力に応じて																																													
穂肥1	出穂21~18日前	1.0~1.5kg	遅れずに施肥~籾数確保																																													
穂肥2	出穂12~10日前	1.0~1.5kg	しっかり施肥~登熟向上																																													
合計	-	5.0~6.0kg	*一発基肥 トータルN: 5.0~6.0kg																																													
<p>《生育のめやす》</p> <table border="1"> <tr><th>生育ステージ</th><th>時期</th><th>草丈 (cm)</th><th>茎数 (本/m²)</th><th>葉色 (SPAD)</th></tr> <tr><td>1回目穂肥</td><td>7/23</td><td>65</td><td>550</td><td rowspan="2">33~36</td></tr> <tr><td>2回目穂肥</td><td>8/1</td><td colspan="2">*葉耳間長: 0cm</td></tr> <tr><td>出穂期</td><td>8/12</td><td>78 (稈長)</td><td>400 (穂数)</td><td>34~36</td></tr> </table>																									生育ステージ	時期	草丈 (cm)	茎数 (本/m²)	葉色 (SPAD)	1回目穂肥	7/23	65	550	33~36	2回目穂肥	8/1	*葉耳間長: 0cm		出穂期	8/12	78 (稈長)	400 (穂数)	34~36					
生育ステージ	時期	草丈 (cm)	茎数 (本/m²)	葉色 (SPAD)																																												
1回目穂肥	7/23	65	550	33~36																																												
2回目穂肥	8/1	*葉耳間長: 0cm																																														
出穂期	8/12	78 (稈長)	400 (穂数)	34~36																																												
<p>《新之助ガイドライン基準値》</p> <table border="1"> <tr><td>玄米タンパク含有率</td><td>6.3%以下(水分15%換算)</td></tr> <tr><td>精粒歩合</td><td>70%以上(等級検査1等相当)</td></tr> <tr><td>水分含有率</td><td>14.0%以上・15.0%以下</td></tr> </table>																									玄米タンパク含有率	6.3%以下(水分15%換算)	精粒歩合	70%以上(等級検査1等相当)	水分含有率	14.0%以上・15.0%以下																		
玄米タンパク含有率	6.3%以下(水分15%換算)																																															
精粒歩合	70%以上(等級検査1等相当)																																															
水分含有率	14.0%以上・15.0%以下																																															
<p>《品種特性》</p> <table border="1"> <tr><td>早晩生</td><td>耐倒伏性</td><td>葉いもち</td><td>穂いもち</td><td>紋枯病</td></tr> <tr><td>晩生</td><td>やや強</td><td>やや弱</td><td>弱</td><td>やや弱</td></tr> </table>																									早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病	晩生	やや強	やや弱	弱	やや弱														
早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病																																												
晩生	やや強	やや弱	弱	やや弱																																												
<p>《収量構成要素》</p> <table border="1"> <tr><th>収量 (kg/10a)</th><th>1穂籾数 (粒)</th><th>穂数 (本/m²)</th><th>m籾数 (百粒)</th><th>登熟歩合 (%)</th><th>干粒重 (g)</th></tr> <tr><td>540</td><td>70</td><td>400</td><td>280</td><td>82%</td><td>23.5</td></tr> </table>																									収量 (kg/10a)	1穂籾数 (粒)	穂数 (本/m²)	m籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	干粒重 (g)	540	70	400	280	82%	23.5												
収量 (kg/10a)	1穂籾数 (粒)	穂数 (本/m²)	m籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	干粒重 (g)																																											
540	70	400	280	82%	23.5																																											